

2013年度事業報告（案）

2013年 4月 1日 から 2014年 3月 31日まで

特定非営利活動法人 ぐるったネットワーク大町

① 地域資源の発掘・保全事業

ア. くろよんスピリッツ掘り起し事業

長野県の「地域発 元気づくり支援金」を受けて、黒部ダム建設に携わった方々に、仕事への誇りを語っていただき、冊子「黒部ダムとおおまちのお話」を発行。

市民グループ「おおまちラボラトリ」発のアイデアであり、ラボラトリ若手メンバーが主体となって作成した。発行部数 1 万部。

イ. わっぱらんどの会事務局

恒例のわっぱらんどの夏祭りをはじめ、草刈作業や打ち合わせ等のサポートをした。

② 地域資源を活かした、青少年の健全育成事業および観光事業

ア. 黒部ダム奥の原生林ツアー

恒例となった市観光協会主催のトレッキングイベントを、黒部ダム 50 周年記念として開催することとなり、受付から受託して行った。湖畔遊歩道コース 1 回、黒部平からのトレッキングコース 1 回、河床コース（受付のみ）1 回。申込みから実際の案内、アンケート集計までを一貫して行う中で、多くのダムマニアの存在がわかったので、今後の誘客につなげたい。

また 5 月には、学習旅行で 160 名の中学生のガイドを初めて行い、クイズラリー形式の商品をつくった。黒部ダムは多くの学習旅行を受け入れているので、今後市の観光協会や旅行会社と連携して、ガイド付きの学びのプログラムを充実させ、販売していきたい。その他、ツアーバス、個人客の受け入れも数回行った。

イ. かんじきハイク

大町温泉郷雪まつりの協賛キャンペーンとして、2 月の毎日曜日に、中山高原のかんじきハイク、3 月第 1 日曜日に黒沢高原のかんじきハイクを行った。前年 1000 円の参加費を 1500 円にアップしての開催ではあったが、出足は好調。満足度も高いツアーとなった。ただし、2 月中旬の大雪のため、15 日に予定していたツアーは中止となり、その後の客足は減少傾向となった。団体の受け入れも 2 件入っていたが、1 件は大雪のため中止となった。

ウ. ナイトハイク

大町温泉郷青年部からのリクエストもあり、前年に引き続いて温泉郷森林劇場周辺のナイトハイクを 8 月と 2 月に行った。

8 月 2 日～17 日（16 日間）：参加者延べ 126 人

2 月毎週土曜日 4 回：参加者延べ 20 人

また、上原の湯と連携して、7 月 6 日と 13 日の 2 回、宮の森の蛍ツアーを行った。こちらの参加者は 26 人。薄暮の森の散策は思いの外好評だったため、今後にもつなげたい。

エ. アルプスあずみのセンチュリーライド

5月24日に開催されたアルプスあずみのセンチュリーライドにて、前年より1カ所多い3カ所のエイドステーションの運営を行い、好評を博した。

*大町エイド：ネギ味噌とわらび餅（カシマツリ実行委員会、大町水物語の会ほか）

*大町温泉郷エイド：漬物バイキングと一口ドーナツ

（もんぺの会、信濃大町のつけものや、コンディトライ・アン・マリーレほか）

*木崎湖エイド：冷奴と赤飯饅頭（栗林豆腐店、社直売所内たんぼ工房）

オ. 北アルプス山麓グランフォンド

2回目となる北アルプス山麓グランフォンドを9月に開催。実行委員会事務局を受託し、主に地域連携とエイドステーションの運営、応援バスを受け持った。

地域連携では、宿泊施設に大会参加者限定の特典を募ってHPにて紹介したほか、ウェルカムイベントでの抽選会の景品として地元の協賛品を募り、広くアピールした。

*9月7日受付、9月8日当日。

*参加費大人6000円、子供4000円。申込み人数640人、うち75%が県外。

カ. 北アルプスツーデーウォーク

平成25年度は、国営公園の管理体制が変わり、ツーデーウォークの事務局は公園管理センターが受け持つこととなって事業がスタート。11月に園内を歩くファミリー向けの5kmコースを設け、探検クイズラリーを実施した。ぐるったネットワークでは、松本大学スポーツ健康学科の有志と連携し、距離の計測と歩いたときの消費カロリーの計算をして看板を作成。当日は、国営公園のサポーターと連携してイベント運営にあたり、準備体操や豚汁振る舞い等も行った。

キ. 信濃大町お葉漬け隊

「食と地域の交流促進対策支援事業」の支援は平成24年度で終了したが、既に恒例イベントとなっている温泉郷でのお菜洗いイベントは、ニーズもあることから継続。

3日間の温泉郷におけるお菜洗いイベントのほかに、えびす講への出展と、3件の体験ツアーの受け入れを行った。また、あめ市における野沢菜味巡りの出展も行い、多くの来場者に楽しんでいただいた。

お客様の反応もよく、地域の食文化を伝える上でも意味のあるイベントのため、今後も補助金に頼らず、工夫して継続していきたい。

ク. 温泉郷イベント（さくら祭り、ゆきんこ祭り）

温泉郷のイベント協力として、ゆきまつりにおける木ろうそくの提供や、福島県飯館村からの保養ステイ時の豚汁振る舞いを行った。また、同時期に開催された上原の湯の「ゆきんこ祭り」に協力した。

ケ. 小・中学生の体験学習の受け入れ

地元小学校1年生のわっぱらんどへの受け入れを、夏・秋・冬の3回計画した。うち2回は天候等の影響で学校での実施となったが、臨機応変に対応する中で、ニーズに応えるプログラムが蓄積されている。

また、東京の中学校1年生の受け入れも行い、ピザ作り、林業体験、水温調査等、わっぱらんどならではのメニューを組み合わせたプログラムを実施した。

③ 前項をとおした仕事おこし・地域づくり事業

ア. 黒部ダム展示物管理業務

黒部ダム 50 周年記念事業として行われたダムサイトでの特別展示「黒部の物語」の、展示管理を受託した。(7月19日～8月31日の44日間。)黒部ダムのガイドにも関係するため、当会内のガイドチーム「北アルプスネイチャーガイド」のメンバーが中心となって業務を行った。

イ. 信濃大町食と観光研究会

農林水産省の新事業である「都市農村共生・対流総合対策交付金」に申請し、「信濃大町食と観光研究会」を発足。事務局を担っている。この事業は別団体・別会計であるが、活動内容としては、北川フラム氏を統括コーディネーターとして招聘し、市民が学びあう中で大町全体のブランドイメージをつくり、食を通して発信するための活動を行っており、25年度は「恋するおおまちスイーツ第2弾」の開催、冊子「おこひる」の制作も行った。この事業を母体として、26年度の大きな事業である「信濃大町食とアートの廻廊」が誕生した。

④ 地域の市民活動をつなぐためのネットワーク事業

ア. 大町ラボラトリ現地コーディネート

大町活性化研究会「おおまちラボラトリ」のお世話係として、信濃大町 Walker への情報提供、やまびこ祭りにおける「恋するおおまちスイーツカフェ」の開催をサポートした。シビックプライドの冊子作成(当会の事業として実施)、恋するおおまちスイーツ(信濃大町食と観光研究会の事業として実施)等について事業が実現できるよう調整した。

イ. 信濃大町食とカートの廻廊の開催準備

2月28日に、「信濃大町食と観光研究会」を母体として「信濃大町食とアートの廻廊実行委員会」が発足した。当会はここでも事務局を担い、イベントにおける市民活動連携を進めている。

ウ. 会員、出向、事務局

当会は、現在、大町市観光協会、大町商工会議所、大町商工会議所青年部、自然体験活動推進協議会に加入中。また、大町まちづくり協議会、定住促進協働会議、国営アルプスあづみの公園を活かした地域振興推進会議に委員を出向している。大町グラウンドワーク「わっぱらんの会」、北アルプス山麓グランfond実行委員会、信濃大町お菓漬け隊、信濃大町食と観光研究会、信濃大町食とアートの廻廊実行委員会の事務局も担う。

⑤ 地域情報の収集・発信事業

ア. ぐるっとマップ制作

大系タイムスに隔週で「ぐるっとマップ」を連載。さまざまな切り口で地域資源マップを作成し、地域の魅力を発信してきた。2013年度中の掲載数は29。

イ. I・Uターン、コミュニティビジネスの取材・発信

大町市産業立地戦略室の委託を受けて、I・Uターン、コミュニティビジネス等の取材・発信を行った。2013年に取り上げた件数は6件。